

PTA

やまがた

第36号

平成24年3月発行

・編集発行・

山形県PTA連合会

会長 武田 岳彦

山形市緑町1-9-30

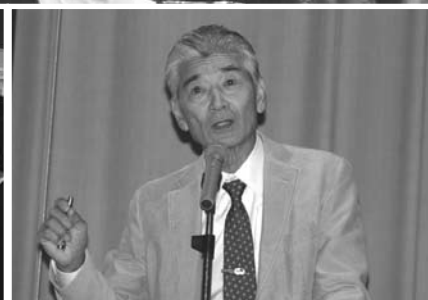
山形県新築西通り会館内

TEL 023(631)0055 FAX 023(635)4359

・印刷所・

中央印刷株式会社

山形市銅町1-1-5 TEL 023(631)5533



県P連活動スローガン

『築こう
子どもたちの笑顔溢れるふるさとを』

～できることから始めよう 行動が未来をつくる～

「子どもたちの

笑顔のために」

山形県PTA連合会会長 武田 岳彦



常

日頃より、山形県PTA連合会の活動に、温かいご理解、ご支援を賜り、誠にありがとうございます。

また、それぞれの学校、地域において、子どもたちを育む環境づくりに、ご尽力をいただいておりますことに、心から感謝を申し上げます。

二〇一一年三月十一日に、東日本大震災が発生し、子どもたちを含む多くの尊い命が失われました。亡くなられた皆様に謹んで哀悼の意を捧げますとともに、被災された皆様に

心よりお見舞いを申し上げます。

山形県PTA連合会で呼びかけた支援活動に対して、県内の多くのPTAより、多大なるご協力をいただきました。多くの皆様よりご厚情を賜りましたことに厚く御礼を申し上げます。

学用品等の物資に関しては、直接被災地に出向き、子どもたちへ手渡しをしてきました。義援金につきましては、山形県内に避難されている子どもたちやご家族を対象に活用していく予定ですので、この紙面をお借りしてご報告を申し上げます。

今年度、山形県PTA連合会は、「築こう 子どもたちの笑顔溢れるふるさとを」～できることからはじめよう 行動が未来をつくる～のローガンの下、様々な活動を展開してきました。

「第五十九回日本PTA全国研究大会 ひろしま大会」には、県内各地より多くの方々にご参加をいただ

き、研修を深めることができました。ひろしま大会では全国の仲間から、被災地に向けて熱いエールをもらい、勇気を与えていただきました。

また、震災の影響で一日開催となった「第四十三回東北ブロック研究大会秋田大会」では、東日本大震災という未曾有の災害により、大きな痛手を受けた被災地の復興を仲間とともに誓い合い、東北が心を一つにした感動の大会でした。

「第六十三回山形県PTA研修大会」を小国町において開催し、千名を超える皆様に参加をいただきました。加茂水族館館長の村上龍男氏による記念講演をはじめ、PTAが取り組むべき課題をテーマに、五つの分科会を開催し、多くの学びを得ることができました。

実行委員会をはじめとする西置賜地区の皆様が、施設の条件が限られていることなどの課題を乗り越えて、広域連携の下、思いの伝わる素晴らしい大会を開催してくれたことに、心から感謝を申し上げます。

母親委員会の活動では、日頃、子どもたちと接する時間の多い母親ならではの視点から、子育ての悩みや課題の解決に向けて活動をしました。山形県教育委員会と高等学校PTA連合会との合同教育懇談会では、

県Pとして力を入れていた読書をキーワードに意見を交換し、有意義な懇談会となりました。

平成二十三年度は、東日本大震災という未曾有の震災に直面し社会全体が揺れ動く中で、各地のPTAの皆さんが、適切な判断と柔軟な考え方で困難に立ち向かってくれたと感じています。

強い絆で、子どもたちのためにご尽力をいただいたことに感謝を申し上げます。一年間、ありがとうございました。



自利の心と利他の心



米沢市立第一中学校校長
島 津 真 一

昨年三月、東日本大震災が起き、広い地域に渡り、多大な被害に見舞われた。特に、地震によって発生した津波は私たちの想定をはるかに超え、多くの命が奪われた。更に原発事故はその後の復興を遅らせている。被災地では理性ある行動が賞賛され、お互いに助け合う姿が報道された。この度の震災に対し、国内外から多くの支援の手が差し伸べられている。自分ができる支援は何かを考え、被災地・被災者を救いたいという熱い思いからである。そこには、温かい心が込められている。

一方、被災地では、被災者自らが、この困難な局面を打開しようと、気持ちを新たにし、自分の足で歩み始めている。家族や仲間と

共に歩む姿が新聞に掲載され、困難を乗り越えようとする力強い気持ちを読み取ることができる。私たちは記事の内容から多くのことを学び、改めてさまざまなことを認識した。

今、山形県では「いのちの教育」が推進されている。変化する時代を主体的に生き抜く力を育むためである。これは、自ずと「生きる力」にも通じることだ。私たちは、いのちの教育で子どもに付けようとしている力が、震災からの復興でも必要とされる資質ではないかと考えさせられた。震災に限らず、これからの先行き不透明な社会を生き抜くには欠かせない力である。それを育むために、家庭や地域の方々と一緒に連携を図りながら、確実に一步一步前進していきたいものだ。

PTA行事などで、自分の子ども同様に、他の子どもに対してもきちんと叱り、誉める保護者や地域の方々を見る。人は、自分を大切に思う自利の心と共に、他の人も大切にする利他の心を持ち合わせているようだ。今回の震災でも普段の生活でも見て取れる。こうした自利と利他の心、つまり思いやりの心を子どもたちに身に付けさせたいとの思いを強くしている。

山形県PTA研修大会を終えて



研修大会実行委員長
渡 邊 重 信

第六十三回山形県PTA研修大会西置賜大会（小国大会）へ、県内各地より千百名を超える皆様にご参会いただき、誠にありがとうございました。

今大会は、PTA活動の継続性と成果の積み上げをねらい、山形大会のテーマや分科会構成等を踏襲した形態で開催しました。第一分科会では「統廃合が進む時こそ、きめ細かな情報発信と、大人が背中を見せ連携を強化すること」、第二分科会では「親がコミュニケーション方法を教え、社会性や情報化社会における倫理感を育むこと」、第三分科会では「PTA活動は自らを豊かにする場、一過

性ではなく継続すること」、第四分科会では「食や読書を通し、生きる力を育むこと」、第五分科会では「たくましい心と体は、規則正しい生活と朝ご飯を摂ること」等の重要性を確認し合いました。

記念講演では、鶴岡市立加茂水族館館長村上龍男氏より、「落ちこぼれがつくった、世界一のクラゲ水族館」と題したお話をお聞きました。「どんな子にも目と手をかけ、子どものつらさをわかってやること」「興味を持ったことにとことん取り組ませること」の大切さを教えていただきました。

十分な施設がない小国町でも今大会を開催することができたことは、我々自身が、『未来を主体的に切り拓く力を求めて』家庭・学校・地域の調和ある関わりを通して』の大会主題を、理解し実践できた成果だととらえています。

最後に、ご協力いただいた関係者の皆様に心より感謝申し上げますとともに、第六十四回酒田飽海大会の成功をご祈念申し上げます。

山形県PTA母親委員会の活動報告



県PTA母親委員長
高橋 裕美



年度も「命の尊さ
大切さ」のテーマの

もと、皆様に支えていただき、活動させていただき、活動させていただきます。心より感謝申し上げます。各郡・市PTAにおいても、特色ある活動が活発に行われましたこと、お礼申し上げます。

今年度は、県PTA連合会が推進している「親子読書」に視点を置いて研修を行いました。研修は、「読み聞かせについて」を本を読み子は必ず伸びる、学校図書館アドバイザーの五十嵐絹子先生に講演していただきました。母親委員会では、「なぜ読み聞かせがいいのか」原点にかえって、学ぼうということになりました。家庭の中で、親子のコミュニケーションの話題の一つにしてほしい。そのために、家庭でできること、学校図書館の役割、地域のかかわりについて学び

ました。本を読む子どもは元気になる。読み聞かせの効能は、楽しさを共有することができ、読み聞かせは愛の時間である。読書や読み聞かせは、心豊かな子どもの育ちに必要なことです。子どもの年齢により、親子の本のかかわり方は違ってくることでしょう。「親子読書」の活動は始まったばかりです。今後も母親委員会では、読書が子どもたちの「生きる力」の一つになるよう、親として、家庭でできることを実践しながら、「親子読書」の推進に努めてまいりたいと思います。

第一回母親委員会 五月二十七日

- ・正副委員長の選出
 - ・活動計画及び情報交換
 - ・研修「いのちの教育」第五次山形県教育振興計画の概要説明
- ## 第二回母親委員会 九月九日
- ・各研究大会の報告及び情報交換
 - ・研修「読み聞かせについて」を本を読み子は必ず伸びる

第三回母親委員会 十一月十一日

- ・「母親委員会だより」作成案
 - ・県PTA研修大会等の報告
 - ・情報交換
 - ・県教育委員会と県P連・高P連の合同教育懇談会参加
- ## 第四回母親委員会

平成二十四年二月十日

- ・「母親委員会だより」について
 - ・今年度の反省及び情報交換
 - ・研修「月経教育の実態調査からみえたこと」
- 講師 山口 節子氏

各地区のおもな活動報告

《山形市》

- ・母親委員会二回
 - ・拡大母親委員会一回
 - ・「命 親子のかかわり」子どもたちの将来をみつめた時、親のあり方とは
- 講師 宇野 全匡氏

《上山市》

- ・運営委員研修一回
 - ・「子どもの発達障害や不登校等不安を抱える家庭への理解と協力」
- 講師 廣田 寛子氏

《天童・東村山地区》

- ・母親委員会二回（七月、十月）
 - ・母親委員会総会（地区小中Pから一名以上出席）
- 講師 庄司 直樹氏

《西村山》

- ・母親委員会三回 *協議 *学習会「ボデイフィーリング」
- ・代表委員会三回（母親委員会の企画運営）

《北村山地区》

- ・村山市母親委員会（各校の母親委員会実践例で発表し啓発する。「ピーマムむらやま」発行）
- ・大石田町母親委員会（講演会）

《最上地区》

- ・尾花沢市母親委員会（単位PTAでの活動のみ）
- ・定例母親委員会三回
- ・地区母親委員会全員研修会年一回

《米沢市》

- ・母親委員会四回（五月七日、七月九日、十一月十九日、二月二十五日）
- *活動報告・計画、役員選出、情報交換
- *研修「自分自身を輝かせ話し行動してみよう」

《東置賜地区》

- *講演「とまどわない子どもとの接し方」～とつぎの時や未経験の事態に直面した時の対応の仕方～
- *講演「読み聞かせの大切さ」

《西置賜地区》

- ・地区P代表母親委員一名が県PTA母親委員会に出席しています。
- ・定例母親委員会年三回
- ・第六十三回県PTA研修大会協力冊子作成（各校活動報告等）

《鶴岡市》

- ・母親委員会二回（六月二十七日、十一月十日）
- *研修「震災を考える」～母親としてできること～

- ・母親委員会二回（活動報告・情報交換等）
- 《酒田市》
- ・母親委員長等会議二回
- ①情報交換
- ②講演会
- ・酒田市PTA研修大会への協力
- 《遊佐町》
- ・母親委員会三回
- *研修「子育てを見直そう」
- 講師 鈴木 幸雄氏
- ・母親委員会だよ
- り発行



「子どもを取り巻く社会環境の整備・充実の方策を考える」 ～家庭のなかの読書文化を考える～

今年度は次のような視点から子どもを取り巻く社会環境の充実を図るため、どのような支援が求められるか、意見の交換をし、その改善と充実方策を探ります。

- ① 家庭の中の読書は、親子のコミュニケーションを活発に親子の絆を深め、共に心の滋養として期待される。親子の読書を、日常の家庭生活に定着させるための条件・環境を考える。
- ② そこで果たすPTAの役割とは何か。何ができるのか。共に考えてみたい。

はじめに、上に掲げたテーマにそって懇談会を進めるにあたり、県PTA連合会菊池健一理事と、県高等学校PTA連合会亀井雅人副会長及び阿部雄幸副会長より、話題提供がなされました。お三人の発表を足掛かりに、出席者の皆様より意見を出していただきました。

〔視点1〕家庭の中の読書文化が、コミュニケーションの活性化、親子の絆の深まり、心の滋養として期待される。読書が家庭のなかに日常化され、定着させるための条件・環境を考える。

◎家庭のなかに読書が日常化され習慣として定着させる条件や環境

- ・年齢によって本の楽しみ方や、親しみ方が違う。中学生になり部活動が始まると、本を読む時間が少なくなるので、小学生のうちから読書習慣を着けさせることが大切。
- ・どのように継続させるかが大切。短い時間でも本を手にとれる環境づくり（トイレに本棚を置く、専用の棚を作る）が大切。
- ・三人の子ともが読書が好きで、幼児期に読み聞かせを行った子は今でもよく読書をしている。反対に読み聞かせをしなかった子は読書をしなない。やはり読み聞かせは大切。
- ・親子で話し合い、テレビを見る時間の十五分間（興味の無い番組）と、夜寝る前の十五分間読書の時間に充てている。
- ・読書を通して家庭の時間を大切にしたい。子どもが選んだ本によって、その子の世界を知ることができる。

山形市立図書館の取り組み

- ・十月よりインターネットで予約ができるようになった。（二週間で五十冊借りて読んでいる人もいます）
 - ・大型絵本の読み聞かせが好評。選書は子どもが行っている。
- ◎読書習慣を確立して自立心の涵養を図るために
（山形北高校の取り組み）
・図書館講座（一九九二年より、三年生がレポーター発表とディベートを行う）毎回テーマ（現代社会が抱える問題など）が与えられ、自分の興味の有無にかかわらず、読んでまとめて発表し、ディベートで競い合うことにより、生徒は自分で調べることで様々なことに興味を持ち本が好きになった。また、保護者からは、「子どもと一緒にニュースを見て意見交換をするようになった。」「物事の本質をとらえようとする子どもの姿勢に驚かされた。」などの感想が寄せられている。学校ではこれからも継続して行う予定である。

山形西高校の取り組み

- ・一・二年生が幼稚園で読み聞かせを行っている。

山形県教育委員会より

- ・県では九割の学校で朝読書を行っている。学校でのきつかけ作りは大きな影響を与えているので、先生方にもっと読書を取り入れてほしい。
- ・国語の授業で「ごんぎつね」を七・八時間かけて取り組んでいるが、同じ作者の別の作品に触れる機会も増やしていく。
- ・アドバイザー（図書館）を派遣し担当先生と生徒も巻き込んで、図書館改造成果を行った。どのような本があるのか知ることから始めてみた結果、読書の楽しみが増えた。
- ・学校だけでは限界があるので、PTAでも協力してほしい。

〔視点2〕そこで果たすPTAの役割とは何か。何ができるのか。

◎学校・家庭・地域の中で果たすべきPTAの役割

- ・子どもの成長に大人は後押しすることが大切。
- ・意識調査より山形県では本を読まない子が多いことがわかった。国語力アップは生きる力につながる。
- ・学校図書館、県立・市立図書館の重要性を再認識し、本に対する窓口をさらに広げることが大切。司書やアドバイザーの力を借りてさらなる向上を図りたい。本の整理などPTAとして手伝えることもあると思うので、気軽に声をかけてほしい。

◎PTAができること、具体的実践
（母親委員会の活動）

- ・昨年度の研修大会の第4分科会でコミュニケーションについて話し合った。その時に以前県PTA連が調査した結果から、本を読む習慣がある子の割合が四一・七％であったため、今年度の分科会に読書活動を加えた。

楯岡小学校の取り組み

- ・夜の市立図書館貸し切り「あい・あいライブ러리」を企画。閉館後学校向けに開館し親子で好きな本を選んで読書を楽しんだ。学年ごとに実施し、親子ともに好評であった。
- ・読み聞かせ以外にも、リペアブックママ、デコ（レシジョン）ママと称し、本の修理や図書室内の壁の装飾をおこなっている。

最後に、本日のふりかえりの中で、県高等学校PTA連合会伊藤三之会長が「親の姿が子どもに影響を及ぼしている可能性がある。子どもも注意する前に自分の姿を見直してほしい。」とまとめられた。

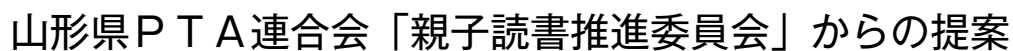


県教育庁理事 佐藤 護様 より

「読書力を向上させるために、読みやすい環境を整えることは親の役目である。いろいろな情報交換をぜひ単位PTAで話し合ってもらいたい。」との言葉をいただきました。今できることは何か。やらなければならぬことは何か。考えるきっかけをいただき懇談会を終りました。

文責・県PTA連合会理事

（副母親委員長 繁村 弘美）



～本を読む子は かならず伸びる～

山形県PTA連合会では、親子読書をととして生涯学習を進め、親子で学び、親子のコミュニケーション活性化により、親子の絆が一層深まり、子どもの学力も向上することを願い、この運動を推進しています。

◆毎月第3日曜日（家庭の日）は、「親子読書の日」です。

- ・県PTA研修大会や教育懇談会でも親子読書を話題に研修します。
- ・親子で近くの図書館に行きましょう。
- ・「親子読書の日」三原則
 - ・20分間はテレビを消してゆっくり読書
 - ・家の人みんなで楽しい読書
 - ・読書ではじまる親子のコミュニケーション

◆親子読書の日にチャレンジするPTAを応援します。

- ・頑張っていますPTA／例
 - ・PTAによる学校図書館（室）の環境整備・PTAで放課後や休日に学校図書館（室）を利用する活動・「読み聞かせ」のボランティア親子読書祭り・親子読書リレー・授業参観日の親子読書・親子読書会・本の読み回し活動・親子読書カード・同じ本を親子で読書・ノーゲーム・ノーテレビデーで読書の時間・「ふれあい読書の日」の設定・親子で市立図書館に出かける日を設定等々

◆「子どもが親と読みたい一冊、親が子どもに伝えたい一冊」を募集します。

～この募集をきっかけに家庭の中に家族の間に会話が生まれることを期待します～

- ・募集期間 平成24年7月1日～8月31日
- ・応募方法 対象は、小学校・中学校の子ども、保護者、教職員
- ・送り先 山形県PTA連合会事務局

◆◆◆◆◆ 平成23年度「親子読書」図書カード当選者（抽選日 H23.11.1）◆◆◆◆◆

《小学生の部》応募数145通

阿部紀佳（大富小・6年） 矢口瑞希（升形小・4年）
えんどうなるみ（みはらしの丘小・1年） 平泉咲季（千歳小・1年）
船越今日花（滝山小・6年）

《中学生の部》応募数23通

山 田 彩 加（米沢三中・1年） 新 関 千 広（山大附属中・2年）
沼 澤 日 菜（舟形中・3年） 後 藤 楓（鳥海八幡中・2年）
今 井 和（鳥海八幡中・2年）

《保護者・教職員の部》応募数143通

近 藤 友 規 (松陵小) 佐 藤 みどり (沖郷小) 梅 津 樹 (朝陽四小)
長 南 睦 子 (天童一中) 須 田 真理子 (升形小)

地域の活動

村山市立榎岡小学校校長 佐藤 淳一



村山市では昨年度新設された「甌葉プラザ」の中に新しい市立図書館が開館し、十月には「読書シテイむらやま宣言」を行い、市を挙げて読書の推進に取り組んでいます。また、山形県教育委員会では、第五次教育振興計画の見直しを行い、感性を養い心豊かな子どもを育てるための読書教育の充実が大きな柱となっております。

さらに、山形県PTA連合会でも親子読書の推進を母親委員会などが中心となり行っております。

そんな中、本校では、新しい取り組みとして、市立図書館のご協力のもと、市立図書館が一旦閉館した後、夜の図書館を本校の貸切にしていただき親子で読書をする企画を行いました。

本とのであいと親子のふれあいを大切にしたいとの考えから「あい・

あいライブラリー」と名前をつけ、低学年（六月）中学生（七月）高学年（十一月）の三回、親子読書を行いました。

各回とも、親子で百人前後の利用があり、大変好評でした。

保護者の皆様方からは、

○親子で同じ本を読んでいろいろ話し合うことができました。

○借りた本を自宅に帰ってから読み聞かせしてあげました。

などの感想をいただきました。

また、親子読書の合間に、ボランティアの方が大型本での英語の読み聞かせを行ってくださるなど、多様な活動が展開されております。

このような企画は、県内でも初の試みということで、問い合わせなどもいただき、また、図書館関係の研究会などでも具体的な成果など発表させていただいております。

来年度は、今年の反省に基づき、市立図書館との連携を深めながら、ますます楽しい親子読書にしていきたいと思います。

本がつなぐ 親子の時間

天童市立長岡小学校PTA副会長 横山 美香

「本を読む子になってほしい。」
「本を好きになってほしい。」

親ならだれもが望むことだと思います。私達大人は、読書の楽しさも大切さも、良くわかっていきますから。でもなぜ？赤ちゃんはみんな、絵本が大好きなのに、子どもも親もあんなに夢中になれたのに。

幼い頃は、読んであげたい、喜ぶ顔が見たいからと、子ども中心に選んでいましたが、いつしか、読ませたい本だから、ためになりそうと、親の思惑（欲？）がらみで選んでいる自分に思い当たりました。与えるだけで、共に楽しむことを忘れていたのかも……。良かれと思つての先回り子どもと本の心地良い世界を、奪っているのかもしれない……。

引き戻してくれたのは、読み聞かせの後の、満足そうな笑顔と、「もっと！」の声でした。子どもたちが、大好きな本の世界で自由に遊び、楽しむことができるように、側に寄り添い、求められるままに読んであげるだけで良かったのです。

「これ読んで。」の声が、本と子の出会いと、親と子の幸せの時間を



長岡小読み聞かせの会の活動のようす

運んでくれます。小さい頃好きだった絵本も、だっこして読んでみてください。子どもの目は、うつとりとろけたようになりますよ。親なら誰でも、受け取ることでできる贈り物です。

子どもは皆、本好きの種を持っています。一冊の本をばさんで、語りかけ、目を合わせ、心をつなぎ、大切に育てていきましょう。

地域と学校と保護者が 連携し合うPTA活動

寒河江市立三泉小学校父母と教師の会会長 秋場 秀 俊

一 地域と学校の概要

三泉地区は、山形盆地の西側にあり、南に寒河江川が流れ、北から西へ葉山、月山、朝日連峰を眺望できる面積三・三五キロ平方メートル、さくらんぼの栽培が盛んな農村集落です。

昭和六十二年度から、学校では「さくらんぼ活動」が発足し、総合的な学習の時間や生活科の時間を活用し、子どもたちに郷土の自然や地理、歴史に親しませたり、田畑での勤労体験をさせたりしています。

PTAでは、いろいろな場面で指導や支援にあたり、子どもたちの体験活動の充実に努めてきた経緯があります。

児童養護施設「寒河江学園」が校区にあることも特徴の一つです。

二 特色ある取り組み

(一) 地域とつながる運営

① 地域全戸が賛助会員

小学生がいる家庭が会員ですが、子どものいない家庭も賛助会員になっています。

② 子ども会育成委員を組織化
各学年より学年委員を選出し、文化部と健康部と母親委員会に配属します。その後、各地区より選出された子ども会育成委員をPTAの育成部員として専門部に配属します。

(二) 特徴的な取り組み

① 親子で心肺蘇生法の研修
授業参観日に合わせて、文化部が親子研修会を企画しています。

三泉小学校にAEDが設置されたことを契機に、二十二年度は「親子で心配蘇生法の研修会」を実施しました。西村山消防本部の職員を講師に、児童と保護者が心臓マッサージやAEDの操作法を実技を通して学びました。

② リサイクルバザーの開催
母親委員会が毎年リサイクルバザーを開催しています。一回目を

授業参観日に合わせて開催し、二回目は地区の文化祭に合わせて開催し、多くの人に参加して頂いています。学用品・運動着・衣類等を持ち寄って安価で販売し、収益金を子どもたちの教育のために寄託しています。一年に一度しか使わないもの等の有効利用が図られ、子どもたちの目を環境や貴重な資源に向けさせる取り組みにもなっています。

(三) 教育活動への支援

① さくらんぼ活動への支援
校地の中に八本のさくらんぼの木があり「さくらんぼ活動」として総合的な学習に利用しています。沖縄県の最南端の糸満市立喜屋武小学校との特産物を通じた交流は永年続いています。剪定や消毒などを歴代のPTA会長三名が担当し、さくらんぼハウスのビニールかけを毎年PTAの事業計画に位置付けて専門部が担当しています。

② 「寒河江川で遊ぼう」への支援

学校行事の中に寒河江川をチューブや自作筏を使って流れ下る活動があります。毎年ふるさとの自然に親しむ活動として夏の終わりに実施しています。安全に実施するためには気温や川の水かさ

など多くの要素に左右されますが、五十名を超える保護者がライフジャケットをつけて川に入り子どもたちの安全を確保しています。

③ 全校スキー教室への支援

Asahi 自然観 SnowParkで全校生がスキー教室を実施しています。二、五名を一班に編成し、技能に応じた指導をするために、学年委員長より各学年の保護者に指導者を依頼しています。多くの保護者が仕事を休んで協力しています。

三 成果と今後の方向性

地域と学校と保護者が連携して、子どもたちを見守ってきたことにより、学校との絆が強まり不登校児童はいません。二十二年度は全員出席の日が百二十四日を数えました。寒河江学園の児童も全員元気に登校しています。今回の表彰を機に一層絆が強まることを期待されます。

今後の方向性として、少子高齢化に伴う児童数の減少、会員数の減少により、組織に歪が生じ始めているので、見直しをする必要が出てきました。役員数や推薦方法などについて会則の見直しを図っているところです。

この度は赤倉小学校父母と教師の
会が優良PTA文部科学大臣表彰を
いただくことができ、会員一同大変
喜んでおります。そして会員だけで
なく地域の人も喜んでおり、誇り
を持ってこの表彰をうけたまわるこ
とが出来ました。

この表彰は、今年度単独という事
ではなく、これまで長きに渡り諸先
輩方や先生方が培って来た活動が認
められたという努力の結晶でもある
と思います。

赤倉小学校は、山形県の北部、最
上盆地の東南端に位置し、南には松
尾芭蕉が通った山刀伐峠があり尾花
沢市に通じています。豊かな自然に
恵まれ、まちの中央を小国川が流
れ、湯量が豊富な赤倉温泉の中にあ
り、旅館や商工業者・農家・会社員
等多様な人々が暮らしております。
観光地という事もあり、いろん
な人々もやって来ます。小学校では
長年『日本一の明るいあいさつ』と
いう目標を掲げており、登下校のあ

いさつはもとより、PTAはじめ地
域の方々、観光に訪れるお客様にも
元気なあいさつをしようとかんばっ
ています。あいさつから交流が始ま
り、みんなの笑い顔が、そして笑い
声が聞こえる地域を目指しております。

赤倉では、小学生抜きではいろん
な行事は語れません。五月初旬には
春まつりがやって来ます。まちの中
心地にある薬師神社から出発し、子
どもたちは俵神輿を担ぎ町内をく
まなく回り、一軒一軒『家内安全、
商売繁盛、ワッショイ！ワッショ
イ！』と大きな声を出して歩きます。
こうやって地域の方々の家や顔を覚
えたり、逆に住民の方々にも顔を
知ってもらえたりする事ができます。
ほとんどのPTAも参加し、一緒に
練り歩いたりみんなで食べる昼食の
準備をしたりもしています。

八月十五日の夏祭りでは小学生が
前に出て踊り、その日の為に練習し
てきた花笠音頭や赤倉温泉囃子など

を櫓の前で披露し華を添えています。
また秋には赤倉小学校区大運動会が
行われます。児童数が少ない事もあ
り赤倉町内運動会の位置にあたりま
す。子どもたちの家庭では見られな
い真剣な眼差しや大きな声を出す応
援合戦はとても魅力的です。PTA
との親子競技も多く応援にも熱が入
ります。他にも三世代交流という事
で、河原で芋煮会を行っています。

冬にはお柴灯まつりがあり、思い
思いの絵を描いたペットボトルに口
ウソクを入れ、雪灯籠をつくりま
す。鳥追いで下帯姿の松明を持った若衆
に声援をおくり、火のついたお柴灯
に願いを込めてあたります。また、

校内スキー大会は赤倉温泉スキー場
の国体コースのゲレンデを借りてア
ルペン競技を行っており、先生方を
筆頭に全PTAが力を合わせ、大会
準備・運営を行い、PTA自らもタ
イム申告レースを行っています。

赤倉小学校は現在児童数が三十名
と小規模校です。総ての保護者が何
らかの役を持ち学校にかかわってい
ます。PTA総会や各種の会議、行
事には毎回一〇〇％の出席です。こ
のような環境は実は保護者にはかな
りの負担がある事も承知しておりま
すが、一方で大規模校にはない恵ま
れた環境もあり、児童・保護者一
人一人の顔が見え、みんなで学校を

支えているという優位性がありま
す。専門部はPTAだよりの発行や
親子あいさつ標語の募集等各課題に
応じた活動に取り組み、母親委員会
では母親委員会だよりを年七回発行
し、年に数回リサイクル活動を行っ
ており衣料品やスキー用具等も交換
しあっています。学級懇談会も年三
回あり、テーマを決めながら意見交
換を行い、会員の意見が今後の活動
にきめこまやかに反映するようにし
ています。また平成十八年度から同
校舎内にあかくら幼稚園も併設され、
幼少連携教育も行っています。

今年度、赤倉温泉町内会では『子
育ち支援』を宣言しており、子ども
たちは地域の宝と位置付け町民全員
で子育てを行い、自立した子どもを
育て、他の子どもでも叱る時は叱る、褒
める時は褒めていこうとしています。
その中で良い事を行った子どもを表
彰しようという企画も進行中。総会
では新一年生に町内会から児童書が
贈られました。また小学校の体育館
に新たに放送室を設け、地域住民も
含め情報の発信地にしようという試
みも始まります。

この度の表彰を大変な名誉である
事と喜び、さらに将来を見据えた赤
倉小学校にしていきたいと私達は考
えております。

優良PTA文部科学大臣表彰

地域とともに

明日を開く赤倉小学校

最上町立赤倉小学校父母と教師の会会長

平 社 裕 一

この度の受賞にあたり、今日までの活動にご協力をいただいた全ての保護者、先生方、そして地域の皆様に感謝申し上げます。また、今回の受賞を励みに、尚一層、学校・家庭・地域がひとつになってPTA活動を展開して参りたいと思っております。

一、はじめに

本学区は、母なる川「最上川」が流れる白鷹町の南東部に位置し、慶長十年（一六〇五年）の諏訪堰開削と共に発展してきた地区である。

本校は大正十四年に地区内二つ（浅立、畔藤）の小学校が統合し、今年度創立八十六周年を迎える。現在児童数一三五名。自然豊かな環境の中で、子どもたちは健康で明るくのびのびと学校生活を送っている。

本校PTAは、保護者会員百名と教職員会員十二名で構成しており、二専門部（生活安全部、広報部）と母親委員会を設置し、今年度重点テーマ「行動しよう！親としてできること」を掲げて意欲的に取り組んでいる。

二、特色ある取り組みについて

（一）PTAの組織と運営

PTA組織は、会長、副会長、事務局、そして二専門部（生活安全部、広報部）と母親委員会、学年部会で構成しており、会員全員が所属している。児童が在籍する六年間ではほぼ全会員が二回の役員を経験し、積極

的に参画している。

（二）登下校時の安全確保と「声がけ運動」

① 登校時の安全確保と声がけ運動
登下校時の安全を確保し、子どもたちと元気にあいさつすること
を目的に、各学年毎に月を割り当て実施している。

② 下校時の安全確保と声がけ運動
下校時の安全確保と子どもたちの生活において有害な情報や環境の監視を行うこと、そしてその除去に努めることを目的に、五月から十二月までの期間内に一回実施

日本PTA全国協議会会長表彰

「行動し、共に成長するPTAをめざして」

白鷹町立東根小学校PTA会長 橋本 徳 味

するようにしている。

（三）「ノーテレビ・ノーゲームデー」

家族のふれあいの時間を増やし、生活リズムの向上を図ることをねらい、毎月十日を「ノーテレビ・ノーゲームデー」（家族団らんの日）に設定した。家族の協力がなくしてできないので、家庭の都合に合わせてチャレンジレベルを段階的に設定し、できるところから進めていくようにした。テレビを消すことが最終目的ではなく、テレビ視聴からくる遅寝

や睡眠不足などをなくし、基本的生活習慣の改善やコミュニケーション力の育成、豊かな心を育むこと、家族の絆を深めることがねらいである。テレビを消す代わりに増える会話や本物の体験に期待している。また、今年度は、町PTA連絡協議会事務局校ということもあり、「ノーテレビ・ノーゲームデー」の取り組みを、町内全校に呼びかけ一斉に取り組んでいる。

（四）学習活動への支援

① 朝の読書活動を支援する
「読み聞かせ会」

母親委員会による読み聞かせ会では、静かに聞き入る子どもたちの姿に、想像力を膨らませて目を輝かせている様子がうかがえ、読む大人にとっても貴重な経験となっている。

② 食育を支援する給食試食会
母親ならではの気づきと目線で栄養のバランスを考えたり、楽しく給食を食べる「食育」の大切さを考えたりする機会になっている。

（五）地域の教育力を活かす「学校・家庭・地域連携推進会議」

「子どもの安全」と「健やかな成長」を共通の目的に、また「地域の子どもは地域で育てる」をスローガンにして、PTAと学校後援会、地区公民館が共催し、「学校・家庭・地域連携推進会議」を開催している。昨年度は、PTA活動の取り組みを紹介し、地域の教育力を高めるための方策について意見を交えた。

三、成果と今後の方向性

研修組織としてのPTA組織の有り様を大切にしてきたことで、専門部会、学年部会とも年間活動計画の策定や諸行事の計画立案、実施に至るまで、学校側と十分連携を図りながら、会員主体の活動が展開されてきている。年度末に全会員から活動の振り返りと意見を求め、次年度の活動計画にも反映されるようになってきている。今後とも一層教職員会員と保護者会員の連携を深めながら、地域と一体となつて子どもたちを見守り、健やかに育つていく環境づくりに努めていきたい。



この度、平成二十三年度優良PTA及び功労者表彰記念式典が東京紀尾井町のホテルニューオータニで行われ、当小国北部小・中学校は「日本PTA全国協議会会長賞」という素晴らしい賞をいただき、これまで活動に関わっていただいた全てのPTA会員の皆様、先生方、そして北部地区の地域の皆様に深く感謝申し上げます。

一、地域と学校の概要

本校区は山形県と新潟県の県境、「白い森」小国町の北に位置し、朝日連峰の麓、清流羽越荒川沿いの風光明媚な農村です。冬となれば二メートルを超える山形県でも有数な豪雪地帯でもあります。又、豊かな自然を生かしたマタギの熊狩りやワラビ採り、木地作り等の巧みな知恵と技も受け継がれている地域でもあります。近年、本校も過疎化が進み、児童生徒の減少が著しい現在、小学校児童数二十二名中学校生徒数二十七名、合計四十九名の小中併設校であり平成二十五年四月には閉校の予定です。

二、PTAの組織と主な活動

PTAの会員数は、保護者会員三十三名、教師会員十四名、計四十七名です。専門部会は研修部、保体部、校外活動部、環境整備部を

設置し、全会員が所属し、積極的に活動しています。総会、全体保護者会、各専門部の出席率はほぼ一〇〇%で、参観日、学年・学校行事等にもほぼ全員が参加しています。参観日に合わせて全体研修会や学校保健委員会を設定するようにし、子育てについて全会員が研修出来るようにしています。PTAの活動状況は学校だよりで広報し、学区全戸配布になっており、会員以外にもPTA活動の様子をお知らせしています。

日本PTA全国協議会会長表彰

「明るく楽しい学校づくり」を

目指して

小国町立北部小・中学校PTA会長 安部 浩之

三、特色ある活動

「安全・安心・見守り活動」

過去の子どもの交通事故を教訓に大人が模範となる行動を促す「PTA安全アクション宣言」を採択し、家庭内での啓発活動をしています。部活動安全送迎やパトロール通勤等の活動、まご支援隊（PTAが祖父母や地域のお年寄りに働きかけて出来た組織）による登下校の見守り活動を展開しています。又、まご支援

隊では学校で実施する年二回の交通安全教室に参加し、児童生徒と一緒に地元警察署の方から自転車走行や歩行時の安全確認について指導を受け、見守り活動に生かしている。小学校高学年が交通安全に対する知識技能を高める為に参加した「交通安全子ども自転車県大会」では、警察署や交通安全協会の方々と一緒にその練習を支援し、昨年度は県三位という結果に繋がりました。

これら、学校や地域、各種団体と連携・協力した取り組みにより、無

事故で安全な生活が続き、全日本交通安全協会より「交通安全優良校」の表彰を受けました。

「学校・家庭連携しての

家庭生活改善」

子どもたちの家庭生活が不規則でゲーム時間が長いという課題を解決するために家庭生活の重要性を再確認し、親として出来る事、家庭で出来る事を「生活リズムアクション宣言」としてまとめ、実践していくよ

うにしています。

「子どもを核に活力ある

地域づくりへの貢献」

町の「春の道路一斉清掃」に参加し、美化活動を行ったり、アルミ缶・古紙回収・緑の募金・東日本大震災募金活動を行うなど、ボランティア活動や募金活動を親子で協力して推進しています。

「学校統合に向けた活動」

学校統合に向けてPTAが集会を重ね、現在は地域の方と連携し、「明日の北部を築く会」（統合に向けた組織）を立ち上げ、準備をしています。

四、成果と今後の活動

「明るく楽しい学校づくり」を目指して、本校PTA活動は、学校・家庭・地域と連携し、協力して進める事が出来ています。現在まで児童生徒の事故も無く、生活面・学習面でも改善された事も多いです。また、中学校の部活動でも充実した活動が続け、男子バレー部は、平成二十三年度山形県大会で第二位となり、東北大大会出場と輝かしい成績を収めております。今後は児童生徒が学校や地域を愛し、地域に貢献できるように明日の北部を築く会の活動に協力していきたいです。

東北▶秋田大会に参加して



県PTA連合会理事

三 国 守

第四十三回東北ブロック研究大会秋田大会が九月十八日、「がんばろう 東北PTA 美の国 詩の国 秋田で語ろうPTAを」を大会主題とし、東北各県から千五百人以上のPTA会員が秋田市に集まり開催されました。

大会は、はじめに大震災の犠牲となられた児童生徒、会員、教師に対し、しめやかな黙祷を捧げ厳かに進められた心に残る開会行事でした。

記念講演は、タレント春やすこ氏による「今、PTAに求められていること」と題し、自身の子育てを通して感じた子どもたちの教育環境の改善や校外・学校教育を理解し協力することの大切さを語って頂きました。この講演を通して、地域のつながりが希薄になっ

ている昨今、もう一度、地域・学校・保護者が三位一体となって子どもを守り、教え導くことの必要性を改めて感じることが出来ました。

午後からは、「秋田から元気を発信する大会」と位置づけたプログラムとなり、毛筆デザイナー佐藤佳奈先生による書と秋田のエンターテインナーブラボー中谷さんによる楽しい手品を見せて頂きました。佐藤先生の迫力ある筆遣いの緊迫感と、ブラボーさんの笑いによる和やかさというまったく逆の組合せが、新鮮な記憶となり、構成のうまさに驚かされました。

また、被災地から参加する会員の負担軽減を図る目的で、会費徴収をせず、例年の大会とは異なり分科会を無くし一日開催とするなど運営側の細やかな配慮・気配りが感じられた大会でした。

今回は、東北ブロック研究大会酒田・飽海大会として本県で開催されます。現在、実行委員会を中心に準備を進めています。秋田大会を参考に、迎える側として温かみのある大会にしたいと感じています。

最後に、秋田大会実行委員会及び関係各位の皆様のご努力に感謝申し上げますとともに、預けられたバトンを握り締め、大会成功に向け頑張ります。

日▶ひろしま大会に参加して



県PTA連合会副会長

元 木 朗 博

身に付けた綿のシャツが、肌に張り付く様な蒸し暑さの中、八月二十六日私は第五十九回PTA全国研究大会の地である広島へと降り立ちました。「きんさい！みんさい！やりんさい！子どもたちの笑顔のために がんばろう日本！平和な未来へ！ひろしまからの発信！」のスローガンが、三月の震災を経験し単なる呼びかけではなく、参加者全員のコンセンサスへと昇華するのを感じながら、第二分科会へ参加致しました。家庭教育を「かかわろうや たのしもうや 子どもたちと！」の視点から、プロレスラー藤波辰爾氏の基調講演に始まり、子どもの自立心を促すことを結論付けたパネルディスカッションまで、興味深く拝聴させて

頂きました。途中「PTA会長も褒められたい」という私にとってはある意味衝撃的な意見も飛び出しましたが、行動の動機付けはどうであれ、子どもたちをどのように導くかが私達の役目であると得心し会場を後にしました。

翌日「舐め合うPTA活動へ」と説いた相川会長のご挨拶に続き、記念講演では「五体不満足」の著者乙武洋匡氏より、三年間に及ぶ教員経験を踏まえたお話がありました。「学校は杞憂で出来ている」という斬新かつ、彼ならではの論理展開は、多少会場を凍りつかせつつも、やがて「みんなちがって みんないい」という乙武ワールドに会場全体が引き込まれたものと思います。

今大会は震災を受け、様々な物を根本から見つめ直す大会になりました。それは、最後の子どもたちと会員で大合唱した「Believe」にそして、壇上の男達の涙に表れていたものと思います。私自身熱いものが込められてくるのを感じました。それは、同じ時間と空間を共有できた喜び、まさしく全国の会員そして、山形の会員との「絆」を再確認出来た瞬間であつたと思います。私達は言尽くせぬほどの思いを胸に広島を後にしました。

栄えある表彰 おめでとうございます

今年度、県PTAや郡・市PTA、単位PTAにご尽力なされ、多大のご功績をあげられた団体・個人の方々に感謝状や表彰状が送られましたのでご紹介いたします。

文部科学大臣表彰

◇団体表彰

寒河江市立三泉小学校父母と教師の会
最上町立赤倉小学校父母と教師の会

日本PTA会長表彰

◇団体表彰

白鷹町立東根小学校PTA
小国町立北部小・中学校PTA

◇個人表彰

青木 哲志
(平成22年度県PTA連副会長・山形市PTA連合会・山七中)
米野 智弥
(平成22年度県PTA連副会長・西置賜地区PTA連絡協議会・添川小)
高橋 満幸
(平成22年度県PTA連副会長・酒田市PTA連合会・酒田四中)

東北PTA連絡協議会表彰

◇団体表彰

山形市立第一小学校奨学会
酒田市立平田中学校PTA

◇個人表彰(表彰状) 平成22年度理事・監事

中村 憲史(上市市PTA連合協議会・上山小)
野川 晶弘(天童・東村山地区PTA連合会・天四中)
田澤 雅宏(最上地区PTA協議会・新庄小)
佐藤 浩(米沢市PTA連合会・六郷小)
市川 良和(東置賜地区PTA連合会・糠野目小)
今野 久良(鶴岡市PTA連合会・温海中)
長南 聡(東田川郡PTA連合会・立川中)
今野 徹(飽海郡遊佐町PTA連合会・蔵岡小)
横山 美香(天童・東村山地区PTA連合会・長岡小)
川合 隆義(上市市PTA連合協議会・上山小)

優良PTA山形県教育委員会表彰団体

寒河江市立三泉小学校父母と教師の会
山形市立第一小学校奨学会
天童市立寺津小学校PTA
山形市立第七中学校PTA
最上町立赤倉小学校父母と教師の会
白鷹町立東根小学校PTA
小国町立北部小・中学校PTA
酒田市立平田中学校PTA
酒田市立宮野浦小学校父母と教師の会

山形県PTA連合会会長表彰

◇感謝状(県PTA連合会役員退任者)

青木 哲志(山形市PTA連合会・山七中)
中村 憲史(上市市PTA連合協議会・上山小)
野川 晶弘(天童・東村山地区PTA連合会・天四中)
田澤 雅宏(最上地区PTA協議会・新庄小)
佐藤 浩(米沢市PTA連合会・六郷小)
市川 良和(東置賜地区PTA連合会・糠野目小)
米野 智弥(西置賜地区PTA連絡協議会・添川小)

今野 久良(鶴岡市PTA連合会・温海中)
長南 聡(東田川郡PTA連合会・立川中)
高橋 満幸(酒田市PTA連合会・酒田四中)
今野 徹(飽海郡遊佐町PTA連合会・蔵岡小)
豊島 孝宏(小学校教職員代表・山形南小)
齋藤 賢二(中学校教職員代表・米沢二中)
横山 美香(天童・東村山地区PTA連合会・長岡小)
高橋 和典(山形市PTA連合会・附属中)
川合 隆義(上市市PTA連合協議会・上山小)

◇表彰状(郡・市PTA連合会より推薦)

金山 知裕(山形市PTA連合会・附属小)
日野 哲也(山形市PTA連合会・楯山小)
小関 和彦(山形市PTA連合会・山三中)
太田 新栄(天童・東村山地区PTA連合会・寺津小)
奥山 春樹(天童・東村山地区PTA連合会・山辺)
渡邊 和茂(天童・東村山地区PTA連合会・中山中)
安達 忠行(北村山PTA連合会・尾花沢中)
細谷 誠二(最上地区PTA協議会・日新小)
加藤 昌彦(最上地区PTA協議会・鮭川中)
青木 健一(西置賜地区PTA連絡協議会・長井北中)
伊原 淳(酒田市PTA連合会・浜田小)
高橋ルリ子(酒田市PTA連合会・酒田四中)

第33回全国小・中学校

PTA広報紙コンクール入賞校

☆日本PTA全国協議会会長賞・山形県PTA会長賞

酒田市立松原小学校PTA まつばら

☆佳作・山形県PTA会長賞

酒田市立亀城小学校PTA ひなづる

☆日本PTA奨励賞・山形県PTA会長賞

米沢市立松川小学校PTA まつかわ
高島町立糠野目小学校PTA まつかわ
酒田市立十坂小学校PTA とさか
酒田市立港南小学校PTA 港南
山形市立第六中学校PTA 龍山だより
山形市立蔵王第一中学校PTA 蔵王嶺
鶴岡市立鶴岡第四中学校PTA 金峰

☆山形県PTA会長賞

東根市立東根小学校PTA けやきの窓
新庄市立本合海小学校PTA おおやぎ
最上町立向町小学校PTA PTA新聞
新庄市立沼田小学校PTA むまた
舟形町立堀内小学校PTA 水ばしょう
南陽市立赤湯小学校父母と教職員の会 さくら
鶴岡市立大泉小学校PTA ほなみ
鶴岡市立朝陽第一小学校致道会 致道
酒田市立新堀小学校PTA 止善(しぜん)
酒田市立浜田小学校PTA HAMADA

東日本大震災 山形県PTA連合会の支援活動



県内から送られてきた支援物資の仕分け作業
(母親委員会とボランティアの皆さん)



支援物資をP連会長のトラックに積んで搬送
(宮城県／亶理町・東松島市)



P連役員による物資の提供作業
(亶理町 吉田中・長瀬小)



支援物資に喜ぶ子どもたち
(亶理町 吉田中・長瀬小)



お母さんと一緒に絵本を探す子どもたち
(東松島市 赤井南小)



ほしい物をほしだけ提供しました
(東松島市 赤井南小)

「楽しい子育て全国キャンペーン」三行詩の募集結果 ～親子で話そう！家族のきずな・我が家のルール～

都市化や核家族化、少子化など、子育てや家庭教育を支える地域の環境が変化する中、あらためて、親子のコミュニケーションなどによって育まれる家族のきずなや、家庭のルールづくりなど、親子で話し合ったり、一緒に取り組むことの大切さを社会全体で呼びかけていくため、日本PTA全国協議会と文部科学省が共催し、PTA等と学校との連携促進を図ることを目指して「三行詩」を募集しました。

《山形県PTA連合会から日P・文科省に推薦された作品》

◎小学生の部

- 川 西・中郡小（1年）高橋菜那佳 「おはなにみずをかけました／おはながうれしいといいました／あしたもわすれずかけましょう」
- 赤 湯・赤湯小（3年）細谷 遥奈 「妹が笑うとお兄ちゃんがわらう／わたしもわらう／お父さん、お母さんもわらう／妹のえがおは家族の宝物」
- 尾花沢・玉野小（10歳）菅野 祐希 「大地しんで停電になったあの日／ローソクの灯りで心細かったけど／家族みんながそばにいて、何だか安心した。」
- 尾花沢・上柳小（4年）小座間建希 「『おやすみ。あしたね。』／ぼく達家族のねる前のあいさつ／なぜかいい夢見れるんだ」
- 米 沢・広幡小（5年）山口 夏輝 「東京で仕事をしているお父さんが帰ってきた日。／『お母さん！いつもより一品多いよ。』／会話もはずんで、楽しく、おいしいごはんだね。」

◎中学生の部

- 小 国・白沼中（1年）小池 直道 「7年前から続けている朝ご飯の前のぼくの習慣／仏様のご飯上げ。／前は面倒だったけど、今はしたあと気持ちが落ち着く。」
- 小 国・白沼中（1年）井上 和樹 「どんなに忙しくても／夕食は皆で食べるのが 我が家の掟／家族で話す 今日の出来事／あふれてくるのは 明日のへの家族の絆」
- 長井・長井北中（2年）船山 泉美 「『ごはんだよー』の一声で テーブルに全員集合／食欲と笑顔の確認」
- 長井・長井北中（3年）小林 瑞希 「親の愛 感じながらも 反抗期」
- 県立新庄養護（高等部1年）本間 大樹 「いやなこと しない 言わない がまんする」

◎保護者・教職員の部

- 尾花沢・上柳小（保護者）永井 喜理 「一日の 元気のモトは 朝ごはん」
- 川西・大塚小（保護者）那須虎太郎 「不器用でも あなたの一生けんめいさ 一番大すき」
- 川西・大塚小（保護者）原田 樹哉 「朝 起きたら『おはよう』／みんなに 大きい声で 元気に言えたら／がんばれるね」
- 長井・豊田小（祖 父）石井 千聖 「かわいいまご いやがられても／めげずに つきそう 登下校」
- 長井・豊田小（保護者）吉田 富美 「一日一回 抱きしめて／幸せのにおい 深呼吸／心がほっこり あったまる」

山形県PTA連合会安全互助会から

山形県PTA連合会安全互助会の運営にあたり、関係各位・保護者の皆様からのご理解ご協力に感謝申し上げます。昨年の東日本大震災では、大津波や原発事故により多くの方が被災されました。改めて心からお見舞い申し上げます。山形県PTA連合会安全互助会は、県PTA連合会とともに、県内に避難された児童・生徒の会費を免除し、支援体制を取りました。慣れない移転地での生活不安を少しでも無くし、子どもたちの笑顔が一日でも早く戻るよう願っています。

保険金支払い状況

（単位：千円）

傷害事故支払状況				賠償事故支払状況		
	件 数	児童・生徒	PTA傷害事故		件 数	金 額
平成21年度	2,144	17,284	6,197	平成21年度	59	2,134
平成22年度	1,700	15,384	4,559	平成22年度	54	2,540
平成23年度 （1月末）	1,309	12,133	3,205	平成23年度 （1月末）	55	2,931

※各年度に交通事故による重大事故が発生しています。※今年度は高額な賠償事故が複数ありました。
※登下校、外出時は安全確認の声掛けで事故防止を。

◆◆日常生活での不慮の事故に備え安全互助会への加入を今後ともよろしく願いいたします◆◆



研究大会実行委員長
佐藤隆之

第44回 東北ブロック研究大会酒田・飽海大会のご案内

このたび、平成二十四年度(社)日本PTA全国協議会第四十四回東北ブロック研究大会酒田・飽海大会兼ねて、第六十四回山形県PTA研修大会酒田・飽海大会が酒田市PTA連合会及び飽海郡遊佐町PTA連合会の主管のもと、「築こう笑顔を溢れる未来を 育もう 公益の心を つなごう 家庭・学校・地域を」を主題に掲げ、平成二十四年九月八日(土) 九日(日)の両日、酒田市及び遊佐町で開催することになりました。本大会は、東北各県と仙台市の七つのブロック単位のPTA会員、約一八五〇名が集まり、日頃の研修や実践成果を持ち寄り、広い

視野から、課題について研究討議と情報交換を行って研鑽し、交流と理解を深めてPTA活動の充実に寄与し、望ましい活動の実践をめざすことを目標にしています。

平成二十二年二月に、本大会の第一次実行委員会を立ち上げ準備を進めているところです。大会当日は、第七分科会までを酒田市及び遊佐町の会場に分かれて行い、大会二日目の全体会を酒田市民会館希望ホールにて開催いたします。

さて、二十三年度の東北PTA秋田大会は東日本大震災により、大会日程を一日開催に変更して行われました。多くのPTA会員が被災され、大変な思いをされていることと思いますが、本大会は、例年以上に元気に笑顔のある大会にしたいと考えていますので、皆様の多数のご参加、ご協力を頂きますようご案内申し上げます。

平成23年度山形県PTA連合会役員名及び事務局員名

役員名	氏 名	所属地区PTA	所属PTA	役員名	氏 名	所属地区PTA	所属PTA
会 長	武田 岳彦	山形市PTA連合会	山五中	理 事	大滝 義和	東田川郡PTA連合会	余 目 中
副会長	西村 浩一	山形市PTA連合会	山 八 中	〃	三国 守	飽海郡遊佐町PTA連合会	西遊佐小
〃	渡邊 重信	西置賜地区PTA連絡協議会	小 国 小	〃	佐藤 淳一	県小学校教職員代表	楯 岡 小
〃	阿部 雅之	酒田市PTA連合会	富士見小	〃	島津 真一	県中学校教職員代表	米 一 中
〃	元木 朗博	北村山PTA連合会	楯 岡 中	〃	高橋 裕美	山形市PTA連合会	みはらしの丘小
理 事	齋藤 忠雄	上市市PTA連絡協議会	上 北 中	〃	繁村 弘美	西置賜地区PTA連絡協議会	小 国 小
〃	高橋 徳彦	天童・東村山地区PTA連合会	長 崎 小	監 事	尾形 吉則	山形市PTA連合会	滝 山 小
〃	田宮 信明	西村山PTA連合会	陵 南 中	〃	鈴木 義満	天童・東村山地区PTA連合会	長 崎 小
〃	長沼 建	最上地区PTA協議会	新 庄 小	〃	山本 正博	山形市PTA連合会	金 井 小
〃	五十嵐昭彦	米沢市PTA連合会	西 部 小	事務局長	鈴木 幹雄	山形市PTA連合会	事 務 局
〃	下平 英和	東置賜地区PTA連合会	沖 郷 小	事務局員	佐藤 静子	〃	〃
〃	菊池 健一	鶴岡市PTA連合会	羽 黒 中	〃	熊谷 慶子	〃	〃

あとがき

◆今年度は、三月十一日の東日本大震災の復旧・復興からはじまりました。山形県PTA連合会でも早々に緊急理事会を開き、学用品を中心とした物資の提供と支援金の募集を開始しました。◆県内各地から短期の内にたくさんの物資が集まりました。これを山形市PTA連の母親委員会の有志とボランティアの皆さんで品目ごとに仕分けされ、その後、宮城県PTA連合会、仙台市PTA協議会と連携し、亘理町、東松島市、仙台市に県PTA連のボランティアが搬送し、被災された皆さんにお渡しすることが出来ました。また、学生服は、県PTA連の渡邊副会長の仲介で岩手県内の被災者に提供されました。◆義援金は十月末までに約百六十万円ほど集まりましたが、これは、十一月の理事会で、「大手の支援団体に託すのではなく、県内に避難している児童・生徒・保護者のために使ってほしい」との意見にまとまりました。◆物資を提供してくださった保護者や子どもたち支援物資を仕分けしてくださった皆さん、募金活動にご協力いただいた皆さん、等々、多くの方々の善意が結集されました。誠にありがとうございます。◆被災者への支援は、これで終わりではありません。これからも続けなければなりません。ご支援を宜しく願います。(県PTA連・事務局)